

海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方を提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。



佐々 信行
さっさ のぶゆき

啓明学園初等学校 校長

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
東京都昭島市拝島町 5-11-15
代表： 042-541-1003
国際教育センター： 042-546-5881
www.keimei.ac.jp

ストレスを避ける知恵

外国に移った時、あるいは日本に帰国した時には、さまざまなストレスが付きものですから、ある程度苦勞することは仕方がないかもしれません。不登校などの苦しい状況を生むのは、多くの場合、特定の大きな問題というより、いくつかの小さな行き違いの積み重ねです。小さなトラブルを少しでも避けることができれば、大きな悩みに至らなくてもすむかもしれません。それには、過去の経験から学ぶことが一番です。

新しい環境と言えば、新しい小学校1年生も同じです。啓明学園では、入学間もない1年生のお母さん、お父さんのために、「歓迎セミナー」を開きました。これまでの経験から学ぶことのできる子育ての知恵を聞いてもらうためです。その中には、海外子女・帰国子女にもあてはまりそうな内容があります。ベテランの先生が語る、「楽しい学校生活のための知恵」を聞いてみましょう。

* * * *

◆「よろしく」の危険（S先生の話から）

啓明学園では、1年生の最初の一週間は保護者に送り迎えをお願いしていますが、子どもたちは、だんだんと一人で通学するようになります。しかし、なんとといっても小さい1年生ですから、だれかがついていてくれれば安心です。

電車通学をするAさんが一人で駅まで歩いていくことになったとき、ちょうど近所の高校生が通りかかりました。お母さんが、「うちの子をよろしくね。」と頼むと、高校生は気持ちよく「いいですよ。」と引受けてくれました。お母さんは、一安心。何日か続くうちに、Aさんを高校生と一緒に見送ると自分も仕事に出かけるリズムができてしまいました。ところがある日、高校生が現われません。お母さんは、ちょっと困った気持ちになり、明るく日、高校生に「どうして来てくれなかったの」と問いつめるような言葉をかけてしまいました。

実は、高校生は、自分の学校の都合で通学の時間を変えようと思っていたのですが、1年生のお母さんに期待され、断れなくなってしまっていたのです。「よろしくね」と頼まれたときは、その日だけのことと思っていたのが、いつの間にか毎日の責任のようになってしまっていたのです。このときは、高校生に相談された小学校の先生が間に入って解決したのですが、一つ間違えると、Aさんのお母さんと高校生の保護者との間で気まずい関係が生まれるところでした。



1年生、初めての休み時間